

人口の年齢構造の変化を人口ピラミッドによってみると、昭和35（1960）年は、きれいな「富士山型」でした。

しかし、その後は中学・高校卒業後の就職による転出や年少人口の減少により、昭和55（1980）年には「ひょうたん型」となり、その後も年少人口の減少と高齢化の進行により、平成27（2015）年には「逆ひょうたん型」となっています。

